

第3学年3組 国語科学習指導案

平成25年10月10日第5限第1音楽室 指導者 清水 佳祐

1 単元名 私はそう思う、私はそう思わないー説得力のある意見文を書こうー

2 目標

- (1) 社会の出来事に関心をもち、論理の展開に着目して社説を読んだり、それに対する意見文を工夫して書こうとしたりする。
- (2) 社説を比較して読むことを通して、明確な主張や、主張を支える根拠の示し方をつかむことができる。
- (3) 構成を工夫したり、根拠を明確にして主張したりして、説得力のある意見文を書くことができる。
- (4) 書き上げた意見文を互いに読み合って推敲をし、意見文を完成させることができる。

3 生徒の実態

- ・授業への取り組みは積極的で、発言や音読に進んで取り組むことができ、学習に対する意欲が高い生徒たちである。
- ・意見文「少年の主張」では、決められた量まで書くことができる生徒は多かったが、テーマについて自分の考えや意見を書き綴っていくことは不十分であった。事実や体験を羅列した文章が多く、作文の構成を工夫したと感じられる文章は少なかった。また、主張の裏付けが弱く、感想のような記述が多かった。
- ・推敲を行った授業では、適切な位置に読点を付けたり、接続語を訂正したりすることはよくできたが、長い一文を分けたり、文章の内容や構成に注目して文章を直したりすることは不十分であった。

4 単元観

本単元は、新聞の社説を比較して読むことを通して、文章を書く人の立場や視点によって主張や意見が異なることや、主張を述べるための根拠の示し方を学ぶ。そして、自分の主張を相手に伝えられる説得力のある意見文を書く力を高めていくことをねらっている。

社説は、見解が異なることや定説がない事柄について、各社の主張や仮説を、根拠を挙げて論証していく文章である。中学3年生の多感な時期に社説という文章に出会うことは、社会への入り口にもなるであろう。社会に目を向け、世の中のさまざまな出来事に関心をもち、さまざまな意見を知ること、書かれていることについての自分の意見をもたせたい。

本単元では、社説を比較して読むことで、社説ごとの主張の違いや、主張を支える根拠となるデータや専門家の意見の示し方の違いをとらえさせる。同じ出来事に対して書く人の立場や見方によって主張が異なることを実感させる。また、自分の意見文を書くときには、主張を明確に書いたり、主張を支えるように根拠を示したりできる力を育てていきたい。それが、生徒の書く力の伸長につながると考える。

5 単元の流れ 6時間完了(本時5/6)

- (1) 「国語世論調査」のデータを読んで気づいたことを話し合おう・・・・・・・・・・1時間(つかむ)
- (2) 2つの「国語世論調査」についての社説を読み比べ、意見文を書こう・・・・・・・・4時間(深める)
- (3) 社説に対する自分の意見文を推敲して、完成させよう・・・・・・・・・・1時間(高める)

6 いきいきと学び合わせるための手だて

- ・「国語世論調査」のデータの抜粋を全員で読み、自分が注目したことを話し合わせたり、2社の「国語世論調査」の社説を比較して読んだりすることで、同じ事柄に対して、人や立場によって意見が異なることを実感させる。
- ・構想につながるワークシートを用いて意見文を書くことで、意見文の基本的な構成をとらえさせるとともに、主張を明確にした意見文を書く力を身につけさせる。
- ・互いの意見文を読み合い、主張の明確さや根拠の的確さについて、赤と青の付せん用紙を用いてアドバイスをさせ、それを推敲に生かすようにし、自分の意見文を完成させる。

7 単元構想図

「私はそう思う、私はそう思わない—説得力のある意見文を書こう—」(6時間完了)

[過程]

[学習活動の流れ]

[教師支援・評価]

つかむ

1時間

「国語世論調査」を読んで、気づいたことを話し合う。①

この調査結果でいちばん気になることが人によって違うね。	慣用句の認識と使用の項目がある。本で読めば間違えることはないけれど、耳で聞いていると勘違いをしようと思う。新聞や本などを読むことが少ないのかな。	日本語を大切にしているか、という質問に対して大切にしていると考えている10代がとて増えている。テレビで正しい日本語の使い方を取り上げた番組を見たことがあるけれど、そういう番組が増えたからそう感じているのかな。
-----------------------------	--	--

同じデータなのに人によっていろいろな気づきがあるな

深める

2社の社説の違いを表にまとめる。②

A社はネットが言葉やコミュニケーションに与える影響について意見をまとめているけれど、B社は言葉自体について、もっと意識を高めていきたいと意見をまとめている。	「国語世論調査」の同じ結果を引用しているところ、別々の結果を引用している部分がある。	人との付き合いで察し合いを重視している人が増えていることを取り上げているけれど、そこについての意見が2社で異なっている。
--	--	--

社説の主張や根拠の示し方を生かして意見文の書き方をとらえ、意見文の構成を考える。③

構成は、主張をはじめと終わりに、短い文でわかりやすく書き、根拠を示す。	根拠を二つ挙げて、意見文の説得力を高めている。	根拠の内容が、自分の体験だけでなく、調査結果を用いて、説得力がある。	反論を予想して、それに対する意見を書いてあるので共感できる。
-------------------------------------	-------------------------	------------------------------------	--------------------------------

4時間

「国語世論調査」の社説に対する意見文を書く。④

説得力のある文章を書くための下記のポイントをふまえて、ワークシートに沿って意見文を書く。
 ①短い文で主張を明確にわかりやすく書く ②数値やデータ、体験などの意見の根拠を二つは示す
 ③構成を意識して主張を明確に書く ④反論を予想して、それに対する意見を示す

書いた意見文を3人グループで読み合い、2種類の付せんで読み手に伝わる書き方がアドバイスをする。⑤(本時)

構成がはっきりしていて、主張がわかりやすい。①主張の文があいまいで、根拠の部分につながっているのかわかりにくい。	根拠としてあげているデータや体験が、主張に結びついている。②根拠と主張の結びつきが感じられず、意見文全体がわかりにくい。	反論に対する意見が的確で、立場の違う読者も納得できる。③反論に対する意見が書かれていない。反論に対する意見が不十分だと思う。
--	--	--

自分が書いた意見文をもっと相手に伝わる文章にしたい

高める

仲間のアドバイスを生かして、意見文を推敲し、完成させる。⑥

読み直してみると、主張の文があいまいで、読み手に伝わりにくい意見文だった。主張の文を考え直して、主張が読み手にきちんと伝わるようにして書き直そう。	根拠として挙げたデータや体験が、自分が言いたい主張につながっていなかった。具体的な数値を示したり、示す根拠を改めたりして、説得力のある文章にしよう。	反論の部分を書き加えてみたら、書いていなかったものより、納得して読める意見文になったと思う。見直して工夫をすることは大切だな。
---	--	---

1時間

社会の出来事に対して自分の意見をきちんともち、それに対する意見を説得力のある文章でこれからも書きたい

・同じ事柄に対して気づいたことや感想を出し合うことで、人によってとらえ方や気づくことが異なることを実感させる。①

・後で取り上げる「国語世論調査」を読むことで、意見文を書くときの資料としても活用できるようにする。①

評) 資料を進んで読むとともに、人によって気づきや異なることを実感することができたか、授業の様子や発言から判断する。

・社説は新聞社の意見であり、すべてが正しいとは言えないことを教え、事実と意見をきちんと分けて読むよう助言する。②

・2社の社説を読んで、それぞれの主張と、示す根拠を表にまとめることで、違いをつかませる。②

・どちらかの社説について賛成・反対の立場、または全く別の立場から意見を、構成をつかむためのワークシートに書かせることで、意見文を書くときの構想を考えさせる。③

・主張の例を示すことで、生徒が主張を決めるための支援をする。③

・構成をつかむためのワークシートを用いて、主張とそれを支える根拠を結びつけて示すことを理解させる。③

評) 社説を比較して読むことを通して、明確な主張とそれを支える根拠の示し方をつかむことができたか、記述や発言から判断する。

・説得力のある文章を書くポイントを示し、意見文を書かせる。④

・意見文を読み合うことで、仲間の意見文の構成や主張、根拠の示し方について、よくわかるか直す必要があるかを判断する。⑤

・2色の付せん用紙を使い、青はよくわかるもの、赤は直す必要があるものに分けて、わかりやすくする。⑤

評) 自分の主張を明確にし、主張を支える根拠を示して説得力のある意見文を書くことができたか、ワークシートや記述から判断する。

・仲間からの評価やアドバイスを受けて自分で設定した課題に沿って、推敲をさせ、意見文を完成させる。⑥

評) 意見文を読み合った評価やアドバイスを生かして推敲をし、意見文を完成することができたか、記述から判断する。

8 本時の指導

- (1) 目標 主張を支える根拠に説得力があるか、自分の意見文を読み返すことができる。
- (2) 準備 教師…付せん、ワークシート 生徒…意見文、構成をつかむためのワークシート
- (3) 指導過程

時間	学習活動の流れ	教師の支援・評価
5分	<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>主張を支える根拠に説得力があるか、意見文を読み合おう</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてをつかむことで、学習の見通しをもたせる。 ・主張と根拠の整合性の大切さを確認させる。 <p>評) 本時の目標をつかむことができたか、発言や様子から判断する。</p>
40分	<p>2 意見文を読み合う。</p> <p>○意見文を読み合う視点を確認する。</p> <p><ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ●主張は短く、明確か。 ●根拠に挙げられた体験や資料は適切か。 ●構成を意識して意見文を書いているか。 ●反論に対する意見を的確に書いているか、また、説得力があるか。 <p>◎根拠の体験や資料は、主張を支えるように書かれているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よくわかるところには青い付せん、直す必要があると思うものは赤い付せんを貼り、積極的にコメントを記入する。 <p>○3人グループで仲間の意見文を読んで、主張と主張を支えている根拠かどうかを確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主張が最初と最後に短い文でわかりやすく書かれている。 ・根拠が、主張につながるように書かれている。 ・自分と同じ主張だけど、根拠が違う。こちらの根拠の示しの方が、説得力がある。 ・反論を予測している。その反論に対する意見が書かれていて、読んでみると納得できた。 <p>3 自分の意見文を読み返す。</p> <p>○自分の意見文を読み返して、推敲するときの課題を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主張を短く書いたつもりだけれど、もっと短くしたほうがわかりやすい。だから、『主張を短くわかりやすくする』を課題にしよう。 ・自分なりに、主張につながるように根拠となるデータを書いたけれど、仲間には伝わらなかった。だから『根拠②を主張につながる別のデータを用いる』を課題にしよう。 ・反論に対する意見が仲間には伝わらなかった。『反論に対する意見を考え直す』を課題にしてもう一度考えて書こう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・例文を用意し、意見文を読み合う視点の確認を行うことで、活動を円滑に進ませる。 ・付せんを2色に分けておくことで、よくわかるのか、直す必要があるのかが視覚的にわかりやすくする。 ・これまでの学習で確認してきた説得力のある文章を書くためのポイントを踏まえて確認させる。 ・主張を支える根拠かどうかを考えさせるために、特に主張と根拠が適切につながっているかを読み比べさせる。 ・説得力のある文章を書くためのポイントに沿って付せんを貼ったり書いたりしているか、机間指導で確かめたり、助言したりする。 ・見つけられない生徒には、ワークシートを見直させ、主張が短い文で明確に書いているか、構成が整っているか、意見と根拠のつながりがあるか、反論に対する意見が書かれているか、など推敲の視点を思い出させ、意見文を見直させる。 ・特に赤い付せんが貼られた箇所について、どのように直すと、相手に自分の主張が伝わるのかを考えさせ、推敲していく課題をもたせる。 <p>評) 意見文を書き直すための課題を見つけ、完成させていく見通しをもつことができたか、記述から判断する。</p>
5分	<p>4 本時の学習の振り返りをする。</p> <p>○推敲するときの課題を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動を振り返らせることで、次の時間への意欲を高める。 <p>評) 推敲をすることで、自分の意見文をよりよくして完成させる意欲をもつことができたか、記述や発言から判断する。</p>